

# 学びの出口を地域につくる ～地域・学校を活性化させるのは人だ～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
西海市立 大瀬戸小学校	大瀬戸小学校学校運営協議会 平成31年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 1名	根っこの会



## 取組の背景及び目標や目指す姿

### 背景

平成25年度に西海市大瀬戸町4地区の小学校・分校が統廃合されてきた大瀬戸小学校。今までに比べ広大な範囲の校区となり、様々な問題点について保護者から相談があった。中でも地域や教職員の関係が希薄化し、地域の活気が無くなりつつあることに危機感を募らせているところにコミュニティ・スクールの話があり、これを活用すべきと地元有志が立ち上がった。先進地研修や準備会などを経て、平成31年度に正式に組織化し、子どもへの4つ願いを設定するなど、寄ってたかって子どもに関わろうと動き出した。課題が多様化した学校の負担軽減、地域の活気も取り戻すWIN・WINの関係を目指している。

### 目標や目指す姿(学校)

一人ひとりが輝く大瀬戸小学校  
～夢いっぱい 笑顔いっぱい チャレンジいっぱい～

### 目標や目指す姿(地域)

地域総がかりで子どもたちを育み学びの風土をつくることで  
地域に活気を取り戻す。



## 大瀬戸小学校学校運営協議会 の特徴

### 委員の立場や属性等

- |                                      |                                     |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 大学准教授       | <input type="checkbox"/> 地域コーディネーター |
| <input type="checkbox"/> 地区公民館関係者    | <input type="checkbox"/> 婦人会        |
| <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会関係者  | <input type="checkbox"/> 地区区長会      |
| <input type="checkbox"/> 放課後児童クラブ関係者 | など、計 17名で構成                         |
| <input type="checkbox"/> PTA関係者      | 年間平均 5回程度開催                         |

### 効果的な運営の工夫

準備会の当初は、地域全体で協議する目的で30名以上のメンバーで話し合いを行ったが、多すぎても建設的な会議とならないことが分かり、20名程度に精選した。それでも限られた時間の会議でよりよい討論結果を出すためには学校運営協議会の舵取りをするチームが必要と感じ、事務局(校長、教頭、PTA会長、地域コーディネーター、ファシリテーター)を発足した。

また、拡大事務局会には県・市の教育委員会や大学准教授、高等学校教員にも入ってもらい、全体会前の事務局会において事前に熟議することで学校運営協議会で活発な討論ができるようになった。



## 特徴的な取組と成果・効果

### 学校運営協議会

ランダムにグループを編成しワークショップ形式で協議を行うなど、地域と保護者、学校が対等な立場で意見交換をできるようにしている。このことで、地域の方等の学びへの提案がしやすくなり、地域人材の思いを重ねた「地域人材交流カリキュラム」の編成につながり、地域とともにある本校の教育を支えている。



工夫された会議の風景

### 地域学校協働活動

「根っこの会」との連携により地域人材の授業への参画が充実している。高等学校の英語教諭による外国語の授業や専門家による地域調べのお世話、昼休みのギター弾き語り等、各得意分野を生かし、普段の授業で得られない経験や世代間交流を低予算で実施できている。



地域人材との交流カリキュラム

### 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

#### [地域コーディネーターを中心とした活動]

大瀬戸町の4つの地区には松島という離島も含まれており、学校の無くなった地区は特に子どもとの関わりが無くなり生きがいや活気が低下している。コミュニティ・スクールを活用したいが、各地区均等に役割を持たせたり、周知したりしなければ、疎遠となる地区が生まれかねない。そこで地域の有識者が発起人となり「根っこの会」を発足し、その発起人が地域コーディネーターとして中心となり、学校と地域の連携役を務めることで、コロナ禍で活動が限られる中意欲を維持しながら活動できるよう努めている。

## 取組

## 成果・効果

- ・学校運営協議会において子どもたちへのメッセージを策定し、それを目標に協働活動ができている。
  1. 大人も子どもも、みんなで進んであいさつをします。(優しい心)
  2. 自分で考え、勉強や遊びに自分で動きます。(創造する力)
  3. 地域の祭り、行事に進んで参加します。(伝統を守る力)
  4. どんなこともあきらめない強い心を持ちます。(やりぬく力)
- ・教員によるふるさと学習推進により地域との協力体制が構築できている。
- ・校内体制の再整備により一部の教員への負担偏重を解消できている。
- ・地域における元教員であるキーパーソン(ミドルリーダー)の存在が学校と地域のどちらの考えも理解できる人材であるため密接に繋ぐことができている。
- ・学校、保護者、子どもへのアンケートを集約し、コミュニティ・スクールの活動による効果を検証できている。特に子どもの前向きな回答が多い。
- ・地域を熟知した人材によって通学路の点検が行われ、より安全なルートの設定につながっている。

#### [教員と子どもと地域の心の通った関係の構築]

学校、地域ともに遠慮せず正直な意見を出してもらい、本気で討論したい。これまでの学校運営協議会においても、運動会での保護者や教員の負担が軽減できたり、教員の意識が地域へ向き出したりしてきた。これを更にステップアップして深化させ、子どもの意見も取り入れるなど、型にはまった会議でなく開かれた運営を心掛けていく。